

1 | 変革 **変革による成長**

昨日の正解が、今日の正解とは限らない。常に更新し続ける姿勢が、自分を、組織を、前に進める。
「正しいと思った瞬間が、止まる瞬間」

●やり方を疑う — 刷新・改善

「ずっとこうしてきた」は理由にならない。今のやり方が本当に最善か、常に自問する。
慣れた頃ほど、疑うことをやめない。

●小さく試す — 実行・検証

改善は小さくなくていい。気づいたことをすぐ試し、うまくいけば共有し、うまくいかなければ次に活かす。動きながら考える。

●外の変化を取り入れる — 視野拡大

業界・他社・顧客の変化に目を向ける。自分たちの常識が、外から見れば非常識になっていないか。視野を広く持つことが、変化への第一歩。

●自分のやり方を見直す — 自己成長

新しいものを生み出すには、まず自らの視点を見直すことから始まる。日々、新しい自分を意識してつくり、成長し続けることを惜しまない。

●新しいことに取り組む — 挑戦

未経験の領域にも踏み出し、変化を止めない。自ら率先して取り組むことで組織の進化を促す。

誠実な言動で信頼を得る

個人の土台。自分を整えることが、相手への誠実につながる。

「自信は、誠実な準備から生まれる。」

● 事実を整理して伝える — 報連相

曖昧なまま伝えない。事実を整理し、相手がすぐに動ける形で伝える。

● 分からないことを放置しない — 努力・成長

不明点をそのままにせず、自ら調べ、行動し、解消する。

● 責任を持って対応する — 責任

卑屈にならず、傲慢にならず。最高の準備を尽くしてきたからこそ、顧客と対等に、誠実に話せる。

● 利他の精神 — 思いやり

自分の成果以上に「誰かの役に立ったか」を問う。自分の担当範囲や利益だけに固執しない。顧客の困りごとはもちろん、仲間のピンチを自分のこととして捉え、一歩踏み込んで助ける事をプロの優しさとして実践する。

連携・協働で全体の力を向上

個人の限界をチームで超える。

「個人の限界を、組織の強さで超えていく」

●一人で抱え込まない — 報告・相談

経験が浅い時ほど、また慣れてきた時ほど、一人で決めない。早めの共有は「負け」ではなく、チームで「勝ち」に行くための最善策。

●情報を共有する — 共有・協力

知識も経験も、持っているだけでは価値にならない。惜しみなく共有し、誰かが困っていたら一歩踏み込む。その「他人への関わり」が、組織を強くする。

●現場の流れを創る — 気配り

相手の作業を止めない、リズムを崩さない。気配りを「技術」と呼べるようになったとき、その人はチームに欠かせない人間になっている。

●言葉で伝える — 感謝・配慮

感謝は、思っているだけでは伝わらない。「ありがとう」「助かりました」を言葉にすること。相手の立場を想像し、言葉が足りないまま終わらせない。伝えることを、惜しまない。

●確認を怠らない — 事前準備

無駄を減らすためには、事前の準備が欠かせない。確認の連絡を怠らず行い、計画的に動くことでチーム全体の流れが整う。

●明朗に働く — 職場の雰囲気

明るい職場を通じて、楽しく前向きに仕事に取り組む。やらねばならない仕事を、自ら楽しみながらできる仕事へと発想を切り替えていく。

4 | 安全 **安全第一**

高圧ガスを扱うプロとして。ルールは守るものでなく、守り合うもの。

「おかしい」と思ったら、まず止める。それが最高の技術

●止める勇気を持つ — 判断力

高圧ガス保安法の精神は、「事故を起こさない」ではなく「事故を起こさせない」こと。おかしいと感じたら、作業を止める。その一声が、**お客様や仲間の命**、会社の未来を守る。躊躇は美徳ではない。

●ルールを周知し合う — 共有・徹底

安全は「知っている人が守るもの」ではない。全員が理解し、全員が伝え合うもの。他社の事故事例を他人事にしない。同じことが、今日ここで起きる可能性がある。

●確認を惜しまない — ダブルチェック

「たぶん大丈夫」は危険の入り口。高圧ガスの取り扱いに慣れた頃こそ、確認を怠らない。ダブルチェック・声かけ・復唱——小さな習慣が大きな事故を防ぐ。

●自主保安活動 — 保安法遵守

高圧ガス販売に携わる者として、高圧ガス保安法に基づく自主的な保安・安全活動を日々実践する。法令を守ることを最低限とし、自ら考え、仲間と共に安全な現場をつくり続ける。

●使うものを、いたわる — プロ意識

トラック、機材、全て道具は、私たちの仕事を支えるパートナーだ。乱暴に扱わず、日常的な点検・整備を怠らない。

道具を大切に使う人間が、仕事を大切にできる。物を大事にする姿勢は、安全意識の表れでもある。

5 | 継承 **知識・経験の伝承・後進の育成**

今日の仕事を未来につなぐ。誇りと知恵を次の世代へ渡す。

「今日の気づきを、次世代の武器に変える。」

●仕組み化する — 標準化・定着

現場で得た新しいコツや、失敗の教訓を個人に留めない。次の誰かが同じ壁に当たらないよう、仕組みや「形」として残す。

●誇りと知恵を引き継ぐ — 歴史・誇り

先輩たちが築いてきた「誇りと知恵」を大切に受け継ぐ。人材の育成を重視し、自分自身も伝える側になることを意識する。

●みんなに伝わるやり方へ — 標準化

「自分のやり方」に固執せず、次の人が迷わず動けるやり方を考える。誰もが理解できる形で伝えることが、チームを強くする。

●継承は今日から始まっている — 意識・実践

継承は、退職間際や引き継ぎの時だけのことではない。教えてもらったことを、今度は自分が教える立場になったときにしっかり伝えられるよう、日頃から意識して仕事に取り組む。

●人は何より大切な財産 — 人材育成

人は最大の財産。時代に合わせた育成方法を取り入れ、先人の知恵と新しい視点を融合させた人材づくりに自分も貢献する